

ブーゲンビリア

～花言葉「情熱」～

2学年だより No. 10
10月24日(月)

ビブリオバトルで「本」を知る「人」を知る



先月、国語科の授業で対話型アクティブラーニングとして「ビブリオバトル」の授業が展開されました。

ビブリオバトルとは…

知的書評合戦とも呼ばれる、誰もが参加できる本を紹介するコミュニケーションゲームです。プレゼンターたちは自分の推薦する本の魅力を語り、聴衆が「どの本を1番読んでみたいと思ったか」を基準にチャンプ本を選びます。「人を通して本を知る。本を通して人を知る。」をキャッチコピーに、全国の小中高校といった教育現場に広がり、授業や総合学習の時間に活用されています。ルールは、①本の紹介(3分間)、②質疑応答(1分間)、③投票 → チャンプ本決定と、いたってシンプル。

生徒たちは、夏休み前から本を選び、じっくり読み込み、プレゼンの原稿を作成し、長い時間をかけて準備してきました。あえてICTは活用せず、自分の推し本1冊と話術のみのシンプルなプレゼンで聴衆をいかに魅了できるか。まさに知的かつエンターテインメント性あふれる学習活動と言えます。



班のチャンプを決める1次予選、班のチャンプ6人の中から学級のチャンプを決める2次予選を経て、今月7日(金)の総合学習の時間に、いよいよ学年チャンプを決める本戦が、オンライン上で繰り広げられました。

歴戦を勝ち抜いてきた各学級のチャンプのプレゼンはさすがでした。聴衆の興味関心を引き寄せるためのキャッチコピーを使った導入、プレゼンターとその本との出会い(その本を読んだきっかけ)、大まかなあらすじや印象に残ったシーンやセリフ、この本を読んだことで味わえる感動など、プレゼンターたちは、身振り手振りを交えながら、カメラの向こう側にいる聴衆に訴えかけるように、存分に自分の大好きな本の魅力を伝えました。

プレゼン後には、質疑応答の時間もありました。オンラインの画面越しではありましたが、各学級から多くの挙手があり、「泣いたシーンはありましたか?」、「自己肯定感って何ですか?」、「お値段は?」など、本にまつわる様々な質問がプレゼンターに寄せられました。なかには、「私もその本を読んだことがあるんですけど、～～についてはどう感じましたか?」と、自分の感想や考察と照らし合わせて意見を求める質問者もいました。この質疑応答のやり取りが、後の得票数に大きく影響するとも言われ、プレゼンターは質問に対して分かりやすくかつ淀みなく回答し、その本の魅力を一層深めてくれました。

プレゼンターの紹介する1冊の本を巡って、学年全体で意見を交わし、その本の魅力を知り、また本を紹介する人の魅力を知ることができた、とても充実した深い学びの時間でした。最終的に得票の結果、学年チャンプ本は4組の西本莉央さんの「さよならも言えないうちに」に決定しました。おめでとうございます。また、3組の砂川凛太郎さんは「あと少し、もう少し」を引っ提げ、西原中学校代表として、柏市中学生ビブリオバトルに参加しました。

【本戦に出場した生徒のみなさんと推薦本】

生徒氏名	タイトル	著者
砂川凛太郎 さん	「あと少し、もう少し」	瀬尾まいこ さん
山中心一朗 さん	「聖域」	コムドットやまと さん
井澤 明音 さん	「変な家」	雨穴 さん
西本 莉央 さん	「さよならも言えないうちに」	川口俊和 さん
大野 響暉 さん	「心。」	稲盛和夫 さん

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

今回のビブリオバトルをきっかけに、紹介された本を実際にプレゼンター本人から借りてみたり、結末がどうしても気になるからと本屋でその本を即買いして読んでみたという生徒が出てきたようです。更にその感想や感動を周りの友人や家族と共有したりと、読書の輪がどんどん広がっているようです。素晴らしいことですね。1冊の本が人と人をつなぎ、心を豊かにし、時に人生を導いてくれるはずです。これからも、読書好きが増え、昼休みの廊下のお友達とのおしゃべりで自然にブックトークが飛び交うような学年であってくださることを願っています。秋の夜長、新たな1冊を手に取り、じっくりと読書はいかがでしょうか?

ビブリオバトルを終えたみんなの感想や意見

- 「号泣する本」ということで、どれ程感動するのか気になった。
- 始めの質問で皆に手を挙げてもらうようにしていて、話に引き込まれた。
- 一度読んだことがある作品だったけど、また読みたくなるようなプレゼンだった。
- ミステリー系の小説が好きなので、今すぐ読んでみたいと思った。
- 私も弟に優しくお菓子をあげられるくらいには変わるのか気になった。

